黒メダカを守ろう

横浜旭ロータリークラブ

一昨年マスコミで黒メダカが絶滅の危機にあると報道され大きな反響を与えました。
当クラブでは黒メダカの問題に合せて環境保全と、青少年の育成に取組んでおります。

●黒メダカ減少の主な原因

1、農薬散布により黒メダカが死んでしまった。
2、田んぼのあぜ道がコンクリート化されメダカの生活できる環境が減ってしまった。
3、生活排水による水質汚染等。

●小学校5年生と共に

全国の小学校５年生は、毎年６月より理科の授業で、各クラス毎に実際にメダカを飼育し、産卵から成魚になるまでの観察をしています。
この５年生に黒メダカを配布し、絶滅しつつある黒メダカを繁殖してもらう事に着目しました。
授業の目的は、身近な生き物の中で一番小さく、弱いメダカを育てる事により、命の大切さ、生命の神秘、弱者へのいたわりの心を目的としています。まさにロータリーが青少年育成に取組んでいる目的そのものです。

●黒メダカへのこだわり

理科の授業では緋メダカが教材です。緋メダカは鑑賞魚用として黒メダカを改良した種であり、メダカの学校で歌われたメダカではありません。
黒メダカが手に入らないために、やむおえず緋メダカが使われています。昔懐かしいメダカを絶滅の危機から守るためにも、私達は黒メダカにこだわっています

●メダカの池の現状

今年４月に池の拡張工事を行ったが、まだ池が小さいため増水時にメダカが下流に流されてしまう。しかし、下流の大池（本池）では黒メダカが増えており（何万匹？）、子供達のすくった網の中には、黒メダカが沢山混ざっています。大池は帷子川に流れています。帷子川の上流から下流へと広がる事が私達の願いです。

●問題点と今後の方向

1、現状は、毎年６月に行う頒布会の黒メダカの回収が困難です。
2、頒布会→繁殖魚の回収→年越し→頒布会のシステム作りを早く軌道に乗せたい。
3、池の水量が少ない。メダカのよりよい環境のための水源確保。身近で一番小さな生物、黒メダカが住める環境が整備されれば、トンボのヤゴも育つし、ホタルも復活するでしょう。
一度失われた自然を元にもどすには、長い時間と労力が必要です。我が横浜旭ロータリークラブ自然環境部会では、黒メダカを通して環境保全・青少年育成に時間をかけて取組んでまいります。

横浜旭ロータリークラブ自然環境部会
部会長　矢　田　昭　一

●横浜旭ロータリークラブとメダカの歴史

H７.5.21	職業卓話にて会員よりメダカが絶滅の危機との問題提起
H10.2	家庭集会にてこの問題を取り上げようとクラブ理事会に提案
H10.5	クラブ内に旭区自然を守る会が発足
H10.6.2	メダカ1000匹を大池自然公園に放流し調査観察を始める。
H10.11.11	観察終了報告書をまとめる。
H10.12.16	江の島水族館館長山口善行氏よりクラブにてメダカの講演勉強会を行う。
H11.5	マスコミでメダカが絶滅の危機にあると社会問題化になる。
H11.11	横浜市へメダカの池建設の陳情
H12.3末	二俣川大池自然公園内にメダカの池（約15坪）完成。
H12.6.11	メダカの学校開校式 計200名（５年生150名）が集まり第１回メダカの放流式を行い、生徒にメダカを配る。
H13.4	会員の参加により池の拡張工事を行う（約25坪）
H13.5.27	第２回黒メダカ頒布会を行う。

ニホンメダカ

※硬骨魚類メダカ目メダカ科メダカ
日本産淡水魚の最小種で古来こども達に深く親しまれている愛らしい小魚である。
北海道を除く日本各地のほか、朝鮮・中国台湾に分布する。全長４cmに達する。
からだは側扁し口は小さく目が大きい。側線はない。平地の池や沼みぞなどの表面を群をなして泳いでいる。野生種は灰褐色でクロメダカと言われるが、これから変化したヒメダカは黄色みを帯びて室内で飼育される。
水温も20度前後に保って飼育すれば周年産卵する。雌は受精卵を肛門部につけて泳いでいるがやがてこれを水草に付着させる。
地方によって呼び名が違いその数は数千にのぼる。

メダカの学校頒布会の様子

おたよりを頂きました。

池の清掃作業

池の拡張工事

※黒メダカに関するお問合せは
後藤（045-320-3755）太田（045-362-6100）まで